

三菱ガス化学株式会社「2026 年度 第 1 四半期 決算説明会」質疑応答要旨

日時：2026 年 8 月 7 日（金） 17:30 ～ 18:30（ウェビナー/電話会議）

説明者：取締役 専務執行役員 財務経理、CSR・IR 担当 / 北川 元康

（本資料に関する注意事項）

本資料については、上記説明会での質疑応答について、加筆・修正を加え、当社の判断で簡潔に纏めたものであることをご了承ください。また、説明会資料同様、記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、説明会当日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

Q1：注目度の高い半導体関連事業について伺いたい。EL 薬品、BT 材料、OPE それぞれについて足下の状況と今後の見通しを教えてください。

A1：EL 薬品の 1Q 実績は前四半期比で 1 桁億円半ばの利益改善となった。韓国拠点で高機能メモリ向けの販売が好調、また北米拠点でも大手顧客の最新プロセスのウエハー製造に使用されるなど、低迷が続いていた大手顧客の需要が回復傾向にある。2Q 以降も販売トレンドは堅調で、下期には台湾拠点での採用進展による数量増を見込んでいることもあり、前回予想比で増収増益を見込む。

BT 材料は、AI サーバー向けメモリ需要の活況を背景に全グレードで好調に推移。半導体の品薄感等もあり汎用グレードが想定以上に伸びているほか、ガラスクロス of 制約はあるものの代替材の確保により、BGA 向け超低熱膨張グレードは着実に採用を広げており、前回想定から増収増益を見込む。

OPE も従来の GPU・ASIC などの AI サーバー向けに加え、通信機器など用途・顧客が多面的に広がっており、2Q 以降も底堅く推移すると見ている。

Q2：スライド P18 記載の ICT3 事業の通期営業利益予想について、前回予想からほぼ横ばい（410 億円→409 億円）となっている理由は何か。また、BT 材料について、下期の見通しを慎重に見ている理由を教えてください。

A2：ICT3 事業において、電子材料及び EL 薬品は前回予想比で増益を見込むが、光学材料は前回予想を下回る見通しである。光学材料では、スマホ向けの光学樹脂ポリマーは堅調に推移しているが、眼鏡向けのレンズモノマープラントで発生したトラブルの影響により減益を見込んでいる。

BT 材料については、上期は汎用グレードを含めて好調な需要が続くと見ている一方、下期はその動きがやや息切れする可能性を考慮している。さらに、足元の需要には一部で仮需が含まれている可能性もあると見ている。また、拡販を進めている BGA 向けの超低熱膨張グレードについては、採用が進展している一方で、ガラスクロス of 調達制約等により拡販ペースがやや鈍化する可能性を織り込んでいる。価格改定については、前回予想から乖離はなく、顧客との交渉を進めている。値上げ効果は上期にも一部発現しているが、受注残もあることから、新価格の浸透には一定の時間を要し、主に下期以降に発現する計画である。

Q3：BGA 基板向けの超低熱膨張グレードの RS 材は、今年度は前年度比で約 10 倍の販売を目指す計画だったと思うが、顧客の評価状況を含めた期初想定からの進捗について教えてください。また、来年度の販売見通しはいかがか。

A3：当社のリソースを確りと割いて RS 材の拡販を進めており、顧客の評価もある程度順調に進められている。ただし、Low CTE ガラスクロス of 調達に一部で苦慮している面もあり、採用の進捗がやや鈍化するリスクも今回予想には織り込んでいる。引き続き国内外複数の代替材の評価を進め、調達の多様化を図りたい。来年度は本格的に RS 材の拡販を進め、BT 材料における GPU・ASIC 向け BGA 基板の販売比率倍増を目指していく。

Q4：ガラスクロス of 調達環境は 3 か月前より改善傾向にあると見ているが、引き続き Low-CTE ガラスクロス of 十分に調達できていない状況なのか。AI サーバー向けの材料に強みを持つ競合他社との成長見通しにも差があるように感じている。この差は、ガラスクロス of 調達力によるものなのか、それとも用途の違いによるものか。値上げについても、競合他社は順調に反映が進んでいるが、貴社は進捗が遅れている印象を受けており、状況を確認したい。

A4：当社 BT 材料の主戦場は現時点ではまだ CSP であり、競合他社は BGA 向け材料のトップメーカーであることが大きな違い。ガラスクロス of 調達状況は悪化してはいないものの、大きく改善もしていないと認識

している。値上げは順次対応を進めているが、当社が提示した条件がそのまま決着するとは限らないことをご理解いただきたい。

Q5: BT 材料の汎用グレードの動向について、下期においても主に AI 関連やメモリ向けで引き続き伸長すると見ているが、貴社の見立ては。

A5: メモリ向けの需要が汎用グレードの販売を牽引していると認識している。一方、足元の販売が好調な背景として、一部顧客が CSP 分野から撤退し BGA 分野へ注力する動きがある中、撤退に向けた在庫確保の動きも一部で生じていると見ている。これは一時的な増加要因であるため、下期に反動減として現れる可能性もあると考えている。

Q6: 今回の決算内容は在庫受払差による影響が大きいが、具体的な影響額を教えてください。

A6: 在庫受払差による影響額を定量的に示すことは控えるが、スライド P7 に掲載されている価格要因+93 億円のうち、約 3 分の 2 が在庫受払差によるもの。なお、価格要因には、在庫受払差以外に BT 材料やその他化学品の価格改定による影響額も含まれている。2Q 以降の業績予想については、メタノール等、市況下落による在庫受払差の反動も織り込んでいるが、販売面や物流面での取り組みにより最小限の減益に留めていく。なお、メタノールは、サウジ拠点で低稼働に留まっている状況においても、トップサプライヤーとして調達、販売、物流面における総合力を発揮し、採算を確保することができたと考えている。

Q7: 前回予想では、サウジアラビアのメタノールプラントは 6 月に稼働が正常化する前提であったが、足元の状況を教えてください。

A7: 前回予想比で 3 か月程度後ろ倒し、9 月から稼働が正常化する見込み。

Q8: スマホ向けの光学樹脂ポリマーについて、足下はメモリ不足の影響があまり出ていないとのことだが、貴社のシェアが高い中で今後のマイナス影響が生じるリスクをどう考えているか。

A8: スマホ市場全体は減速しているものの、光学樹脂ポリマーの 1Q 実績は YoY/QoQ ともに増収となった。用途としてはハイエンドスマホ向けが中心だが、ミドル/ローエンドスマホにも幅広く採用されている他、高屈折材、中屈折材等、当社は様々なグレードを有していることもあり、総じて堅調。2Q は一般的に秋モデル向けの受注が落ち着く時期ではあるものの、現在は受注残も抱えており上期の出荷は高い水準で続く見通し。下期については旺盛な上期需要の反動による生産調整が入る可能性を加味して慎重に予想を策定している。

Q9: EL 薬品について、北米および韓国の需要動向と今後の見通しについて教えてください。加えて、北米での設備増強に伴う償却負担や、事業全体の収益改善に向けた取り組みについても解説してほしい。

A9: 北米では、先端ロジック半導体の製造が立ち上がりつつあり、当社の EL 薬品販売も伸長している。今後も複数の顧客で新工場の立ち上げが予定されており、これらが順調に進めば、当社の北米 EL 薬品事業も当初の構想に沿って拡大していくことが期待できる。業績についても、下期は上期比で増益となる見込みであり、通期でも前年度および前回予想と比較して増益を見込んでいる。

韓国では、HBM(高帯域幅メモリ)を含むメモリ全般について、AI サーバーやデータセンター向けを中心に需要が旺盛であり、当社の EL 薬品の販売も好調に推移している。今後も主要顧客の需要を確実に取り込んでいきたい。

また北米拠点の一部で償却開始が数か月後ろ倒しとなることから、通期では前回予想比で数億円の償却費減少を見込んでいる。一方、今後本格的なコストダウンとして、原料である過酸化水素の物流効率化を計画しており、相応の効果が期待できると考えている。

Q10: サブストレートメーカーが CSP 基板から BGA 基板に事業リソースをシフトさせる動きは、今後、BT 材料の需要、あるいは貴社でのリソース配分、生産体制にどのような影響を与えるのか。

A10: 当社でのリソース配分としては、BGA 向け拡販に重点を置くものの、現状の主戦場は CSP 基板であり、こちらもしっかり供給していく。一方、AI サーバーの拡大は BGA 基板だけでなく、CSP 基板を含めた半導体需要の増加が見込まれているため、当社タイ工場での更なる能力増強投資など、供給体制の強化も検討していきたい。

以上